聖護寺

聖護寺は菊池市中心部から北に位置する曹洞宗の寺院で、1300 年代の一時期、菊池氏の精神的な拠り所として機能していた。この寺は 1338 年、禅の信奉者であった第 13 代当主菊池武重（1307-1341）によって創建された。

武重は、肥後国（現熊本県）出身で 10 年間中国に留学していた禅僧、大智（1290-1367）を聖護寺の住職に招いた。大智は、城下町の隈府から徒歩で丸一日かかるこの山奥の聖地で、菊池当主の精神的な疑問に助言した。また、武重の弟の武光（1319-1373）を含む他の一族の指導も行った。

武光は 1340 年代半ばに菊池氏の主導権を握ると、城下町に正観寺という新しい寺を建てることにした。聖護寺にはあまり関心を示さなくなり、大智はやがて離れていった。山中の寺は荒廃し、1940 年代に長崎の禅僧が再建するまで、500 年以上も廃寺となっていた。